

12
DECEMBER

AGE FREE

MONTHLY

COVER

WOMAN

【今月の表紙】

ファッションプロデューサー
五十嵐かほるさん

age
43

Profile

美術短大卒業後、全日空に入社しキャビンアテンダントに。その後、ファッション関係の貿易業、モデル、司会、研修講師などを務める。現在、企業のブランド作りと店舗プロデュース及び社員研修を含めたコンサルティングを中心に、個人向けのブランディングも取り入れた、イメージコンサルティングを行っている。著書に「あなたの魅力を限界まで引き出す技術」等。

●ノイムジーク有限公司
www.neumusik.jp



撮影協力:ロゼスト www.rozest.co.jp
白金亭 www.shirokanetei.co

salida

Contents
12/8 No.47

Special 求人特集

もっと輝く自分を目指そう! スキルが身に付く・活かせる仕事

やりがいのある仕事に就こう 医療・福祉・介護・保育の仕事

ライフスタイルに合わせて選ぼう アルバイト・パートの仕事

Regular レギュラー特集

02 AGE FREE MONTHLY COVER WOMAN

五十嵐かほるさん(ファッションプロデューサー)

04 style
This week Pick up!

・医療法人聖心会 南古谷病院

05 clip
Job info

ウエディングプランナー

06 転職ってどう? 転職Story

08 trend
人気業界をチェック
年内に決める! 面接術

10 ちょっと一息 Information

12 agefree from New York

レギュラーコンテンツ

- オフィスワーク
- 営業・ファッション・販売・サービスワーク
- ビューティワーク
- 理容・美容ワーク
- ケアワーク
- エリアワーク
- アルバイト・パートワーク
- スターワーク

「サリダ」とリンクした女性のための求人サイト「フォーダブル転職」。
女性の求人情報を随時展開。



女性一人ひとりが輝くために

フォーダブル 転職

www.fourw.jp

編集・発行 株式会社サリダ・アド
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-12-5 内山ビル
岩崎みつ恵 (Editor in Chief)
斎藤優佳・沖真由美・尾崎まどか
石野秀樹・鈴木公子
渡辺剛・岡田香・出川晃 (Staff)
©サリダ・アド 2008 Printed in Japan

スキルや意欲、それを支える人間力があれば、仕事で輝く自分を実現できる。それがサリダのコンセプト「AGE FREE」です。私だからできること、私にしかできないことを年齢や環境であきらめない。マンスリーカバーウーマンは、そんな気持ちで夢を引き寄せた女性です。彼女たちの軌跡には、あなたの明日を変えるヒントがあるかもしれません。



ビジネスオーナー。幼い頃から身をもって体験してきたことすべてが、今の仕事に生かされている。
「先のことが見えなくて、迷った時期もありました。経験してきたことがあまりにもバラバラで、私、何やってるんだろう。このままこの仕事を続けて将来どうなるんだろう」と不安に思ったり。でもあるときふと、気が付いた瞬間が

あったんです。ブランディング・プロデューサーなら今までのすべてを生かすことができる。って。人生に無駄な経験なんてひとつもないとよく言われますが、本当にその通りだと思えます」
プロデューサーした店舗が、お客様や従業員から「前と雰囲気が変わってよくなった」と言われることが嬉しい。イメージコンサルティング

ングを担当した個人が、以前と違って自分に自信を持ち、頑張っている姿を見ると、「この仕事をやっていてよかった」と心から思える。ブランディング・プロデューサーという仕事に、大きな手ごたえと魅力を感じている。
「現在、ファッション販売の資格検定協会である「パーソナルスタイリスト・イン・ジャパン」を立ち上げ、

プロフィール
美術短大卒業後、全日空に入社しキャビンアテンダントに。その後、ファッション関係の貿易業、モデル、司会、研修講師などを務める。現在、企業のブランド作りと店舗プロデューサー及び社員研修を含めたコンサルティングを中心に、個人向けのブランディングも取り入れた、イメージコンサルティングを行っている。著書に「あなたの魅力を限界まで引き出す技術」等。

●ノイムジーク株式会社
www.neumusik.jp

その普及に努めています。今後幅広い意味でのファッションを通して、さまざまな形でプロデューサー活動を行いたいと思います」



五十嵐かほるさん

age
43

ファッションプロデューサー

経験してきたことすべてが
今の自分に生かされている

age
20

キャビンアテンダントで
さまざまな経験を積み

企業、および個人向けに「ブランディング・プロデューサー」を行っている五十嵐さん。日本ではまだ馴染みの薄いブランディング・プロデューサーという仕事だが、欧米では六十年代後半頃から一般に定着している。

「企業や店舗、商品や個人のコンセプトを作り上げる仕事です。具体的には、店舗であれば、内装からスタッフの制服、接客などソフト面までを含めたプロデューサー、商品であれば、パッケージやディスプレイまでを含めたヴィジュアル面でのプロデューサーを行います。エグゼクティブや文化人の、ファッションから立ち居振る舞いまでをアドバイザーするイメージコンサルティングも行っていきます」
「衣・食・住・美のプロデューサーをモットーに掲げ、「ファッション」をトータルでプロデューサーする。

両親がファッションメーカーの経営者だった五十嵐さんにとって、ファッションは子どもの頃からいつも身近にあるものだった。
「海外のファッションショーに連れて行ってもらうたり、見よう見まねでデザイン画を描いたり。漠然と、自分も将来はファッションに関わる仕事をするんだろうな」と思っていました」
大学卒業後に選んだ仕事は、キャビンアテンダント。いざれファッション

age
27

自分の名前で仕事をしたい
独立の道を選ぶ

「でも、実際に仕事を始めてみたら、毎日が楽しくて。いろんな国へ行ってたくさんの人に会い、さまざまなものを見てきました。当時は、洋服にも相当なお金を使いましたね(笑)」

仕事は充実していたが、いつも不思議に思うことがあった。
「自己紹介をするとき、社名を先に名乗るんですよ。相手に「どちらの会社の五十嵐さん？」と聞かれる。なぜなんだろう、と思いました」
五十嵐かほる個人として、仕事をしたい。両親ともに経営者である家庭環境もあって、自然と心は独立の道へ傾いていった。

「退職後は、母の貿易会社を手伝うために海外を飛び回ったり、モデルやファッションショーの司会をしたり、いろんな仕事をしました。その中で、企業を対象にしたビジネスオーナーの研修をしてほしいという依頼を受けたのが、今の仕事につながっていったのです」

age
35

ブランディング・プロデューサーを自分の仕事にする

ファッション、美術、海外経験、